

大蔵じろはったん村の まちづくり計画



朝来市大蔵地域自治協議会



朝来市大蔵地域自治協議会

会長あいさつ

平成20年3月の設立総会を経て発足した大蔵地区地域自治協議会（現、大蔵地域自治協議会）は、平成22年2月に地区のまちづくり計画となる「大蔵じろはったん村のむらづくり計画」を樹立しました。

計画は、第1～第3ステージに分け、組織構成や部会毎に各5年間毎の計画を組み込んだもので、5年後の平成27年3月に第2ステージの改訂を行い、今回第3ステージとして本年3月に計画を取りまとめたものであります。

「大蔵じろはったん村のむらづくり計画」の根底には、大蔵出身の児童文学作家「森はな」さんの、人にやさしく思いやりのあるユニバーサル社会の実現を目指し、あたたかいふれあいのむらづくりを進め、併せて高齢化、混住化の進展と共に人と人とのつながりの希薄化が進む大蔵地区について、人とのつながりを深めるために1つ1つの小さな活動から大蔵全体へと大きな輪となる取り組みを進めることとしていました。

「じろはったん村まつり」や「おおくらフリーマーケット」のように、地域内外に定着して、大きな輪となる取組であると思えます。

今回の改定に伴い、昨年8月には地区の皆様方を対象としてアンケート調査を実施、



配布総数2,851名中、1,383名の方から回答をいただいたところであります。また、多くの方から貴重なご意見、ご要望も寄せいただきました。改めて厚く御礼申し上げます。

全てが自治協で解決出来るものでもありませんが、地区の皆様方のご協力をいただく中で大蔵地区のまちづくりが活力ある方向へさらに前進することを期待するものであります。

後になりましたが、計画策定にご指導ご尽力いただきました兵庫県・朝来市・「朝来まちづくり機構」の皆様方には大変お世話になり、ありがとうございました。厚く御礼申し上げます。

令和2年1月

大蔵地域自治協議会

会長 柴本 修

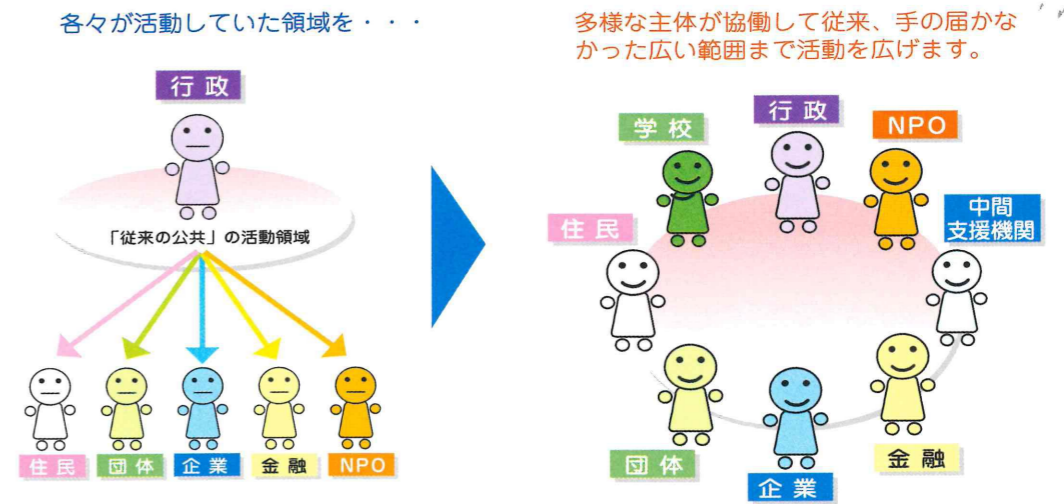
1 まちづくり計画とは まちづくり計画とは	3
2 大蔵地区の特徴と現状 自然、歴史、文化、住民生活等 住民アンケートで見た課題等	5 8
3 大蔵の紹介 大蔵 お宝マップ 寺谷区・東谷区・平野区 土田区・西土田区・宮田区 高瀬区・法道寺区・岡区 芳賀野区・宮内区・高田区	12 14 15 16 17
4 大蔵まちづくり計画アンケート調査 大蔵地域「まちづくり計画」住民アンケートについて アンケート回収状況 居住年数・居住形態構成 大蔵地域の住みやすさについて これからも大蔵に住み続けますか 大蔵地域自治協議会について	18 19 20 21 22 23
5 今後の大蔵の対応と取組み 今後の対応と取組み（特に「不安」、「困りごと」に関して） 大蔵地区の「強み」と「弱み」の把握 年齢別の「不安」、「困りごと」	26 27 28
6 目標値の設定と進捗度の共有および適切なアセスメント 目指す数値の設定…理想に向けて 人口減少と高齢化の原状から飛躍しよう みんなで考える、大蔵地域の活性化 スタートラインに立った「まちづくり計画」 100年経っても「大蔵」は元気です！	29 30 31 32 33

朝来市では平成19年に「第一次朝来市総合計画」が策定されました。その中では、「自考・自行・共助・共創のまちづくり」が謳われています。市民と行政がそれぞれの役割と機能を分担する「地域協働・地域自治システム」を構築し、市民が主体となった新しい時代に相応しいまちづくりに取り組んでいくことを基本としています。

「地域協働・地域自治システム」とは、朝来市の各地域のまちづくりを、市民、自治

会、市民団体、地域団体、民間事業者等と行政がそれぞれ自主的に責任を分担し合い、連携・協力して取り組んでいくという方法です。主体となる地域住民が、地域に必要なことや地域課題の解決に向けて、地域で考え、行動することを基本とするものです。

地域協働では、地域自治協議会をはじめとする市民と行政が互いに知恵を出し合い、汗をかきながら進めていくことが求められています。



※地域協働とは・・・

「地域協働」とは、まちづくりの共通目標（住みやすい地域づくりや福祉、環境保全、文化教育などの地域課題の解決など）を達成するために、市民、行政、事業者など地域の複数の主体（組織）が、対等の関係でそれぞれの特性を活かしながら連携・協力し、役割を担い合い相乗効果を発揮して、より大きな成果を生み出すための取組のことを言います。

大蔵地域自治協議会は、発足以来10年が経過しました。5年区切りで第一次、第二次のまちづくり計画を策定してきましたが、今回は第三次まちづくり計画に該当するものです。大蔵地区に於いて、新しい時代に相応しい、5年後、10年後の未来に向けたまちづくりを検討するものです。

大蔵まちづくり計画は、住みやすい地域づくりのための指針となる計画であるとともに、次のような役割も有しています。

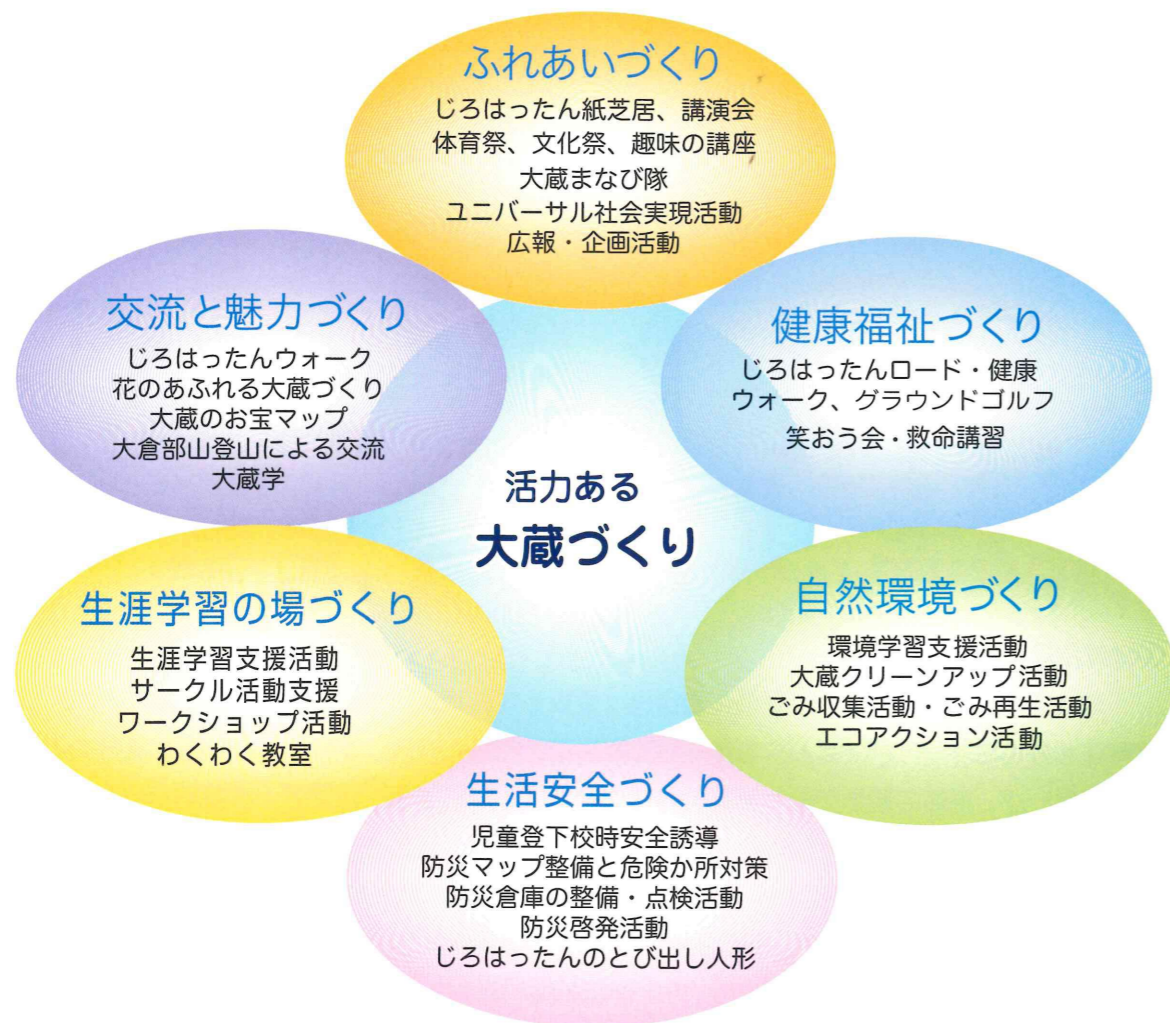
(1) 大蔵地域での活動・事業等の役割

地域には様々な課題とともに様々な活動・事業があります。それらの位置づけを明確にさせ、今後取り組むべき課題と方向性が見えてきます。

(2) 地域活動の効率化

市民、行政、事業者などの活動主体の相互の強力・連携が図れやすくなり、効率化が進みます。

上記のほか、計画の策定に携わってこられた多くの住民の方々が、「これからの大蔵をどのようにしていったらよいのか」について議論を重ねてきたことが、大切な財産として大蔵の地に根付きます。



自然、歴史、文化、住民生活 等

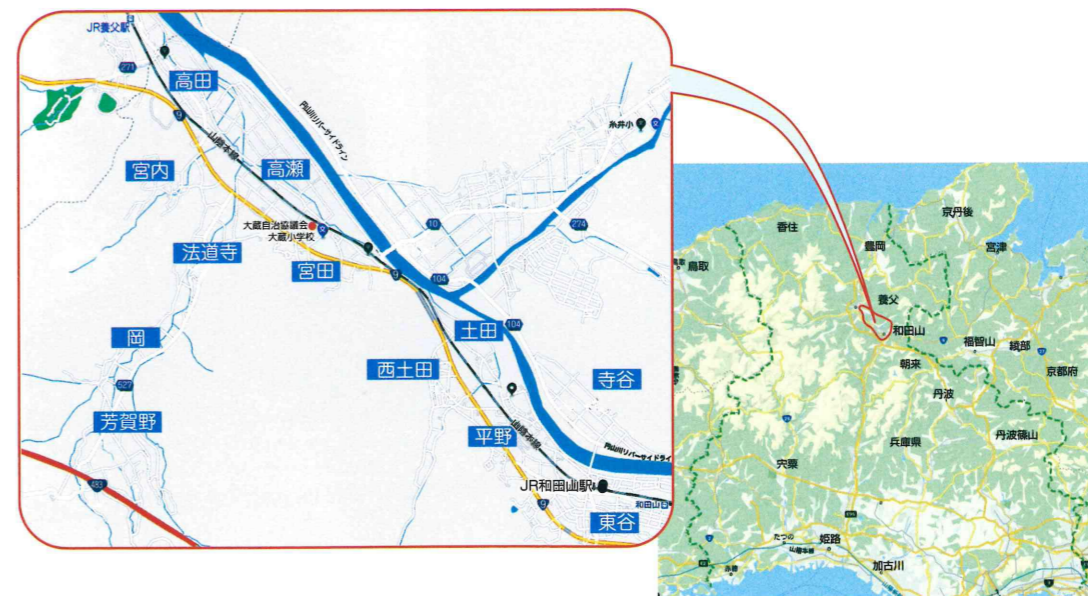
大蔵地区は、兵庫県の北部に位置し、朝来市の北西部にあり、養父市と接する面積がおおよそ16K m²の地域です。国道9号線、円山川と並行して走るJR山陰線の和田山駅と養父駅の間、JR沿線およびその周辺の山あい広がる12の集落で構成されています。

阪神間からのアクセスは、北近畿豊岡自動車道と播但連絡道路の結節点和田山ICで降り、国道312号線を北上し、国道9号線を西側へ少し進んだ所です。また、鉄道では、JR山陰線と播但線が和田山駅で連絡しており、和田山駅で降りた近辺が12集落のうちの一つ東谷区です。このように、阪神間の都市と但馬、山陰地方、また播磨地方に連絡する交通の要衝となっております。

大蔵地区の至る所から多くの古墳群が発見されており、古くから開け、栄えた地域だと想像されます。

和田山駅に隣接した東谷や平野区では土地区画整理も終わり、他地域からの移住もあり、古くから住居を構えていた人々と新たな入居者が入り交じり世帯数もかなり増加した経緯があります。また、円山川対岸の寺谷や北西部に広がる多くの集落には懐かしい農村の田園風景が展開します。

子ども達は大蔵小学校で学びその殆どが、和田山中学校へ進み、高校は八鹿、和田山他各方面へ進学します。また、大学へ進学する者はこの地には大学の設置が無いことから殆ど京阪神が東京圏に移ります。



大蔵の特徴と現状

地域の地場産業は農業であると言われて久しいのですが、蓋を開けてみると稲作農家は著しく減少しており、あちらこちらで放棄田が目立ってきており、後継者がいないことに頭を抱えているのが実態です。多くの就労者は、朝来市内または市外に勤務して生計を立てているのが現状です。

大蔵地区は、1,300世帯、3,167人が在住しています。（平成30年3月現在）なお、65歳以上のいわゆる高齢者数は1,029人となっており、高齢化率は32.5%と超高齢社会の地区となっております。大蔵小学校の児童数も150人程度であり、正に典型的な少子高齢化が進行している地区です。

一家に一台以上の車を保有している世帯が多い現状では、近隣に量販店の施設が立地しているところから利便性が高い地域とも言えます。ただ、運転者の高齢化に伴い免許返戻時期が目の前に到来しており、買物難民が増加することが予想されます。



大蔵の特徴と現状

商工業では、市の代表産業と称せられる金属バネ加工業が盛んでしたが、産業構造の変革等によりやや陰りを見せてきています。

今般北近畿豊岡自動車道が北伸したことにより、豊岡や山陰方面へ移動する車両等は和田山ICが単なる通過点と変化してきています。これにより絶対的に通行量が減少してきており、国道沿いの商業施設に影響が出てきています。

都会ではないけれども田舎でもないという位置づけこそ、今の大蔵地区の特徴と言えます。なお、当地域には「城ノ山古墳」、「池田古墳」をはじめ、おびただしい古墳群が散在しています。

4世紀頃築造されたと考えられる「城ノ山古墳」、5世紀頃の築造と推察される「池田古墳」など、但馬最大級のもので、いずれもかつて南但馬を治めた王の墓と考えられています。

また、戦国時代まで当地域は山陰での要衝の地であり、鳶が城社、法道寺城址などの山城が多く散在し、織田軍、毛利軍のせめぎ合いの地であったことが推察されます。

このように、当地域は古くから開けた地であり、後世に語り継ぎ守っていかねばならない歴史と伝統文化の宝庫でもあります。



住民アンケートで見た課題等

昨年の地域住民アンケートでは、病院が遠い、今後の農地の管理が大変である、子どもが大蔵を出ていくなど、様々な問題・悩みが提起されており、今後の取り組むべき課題が炙り出されています。

大蔵地域自治協議会が取り組むことで一筋の光明が見えてきそうな問題と、行政機関（市・県・国）が施策として掲げても根本的解決が困難な問題が散在しております。

自治協議会では、毎年秋に「じろはったん村まつり」を開催しており、大蔵地区内外から多くの方が訪れ活況を呈しました。



同時開催の「フリーマーケット」も子育て世代を応援するというテーマで開催され、2,000人を超える来場者があり、大蔵地区に根付くエネルギーが爆発した感がありました。

大蔵地区だけの課題ではなく日本全体の課題でもありますが、これから益々少子高齢化が進んでいくことは明白であります。

これからも大蔵地区に住み続ける住民にとって、また、他地域から流入される方々に明るく元気で過ごせるまちづくりが命題となっております。

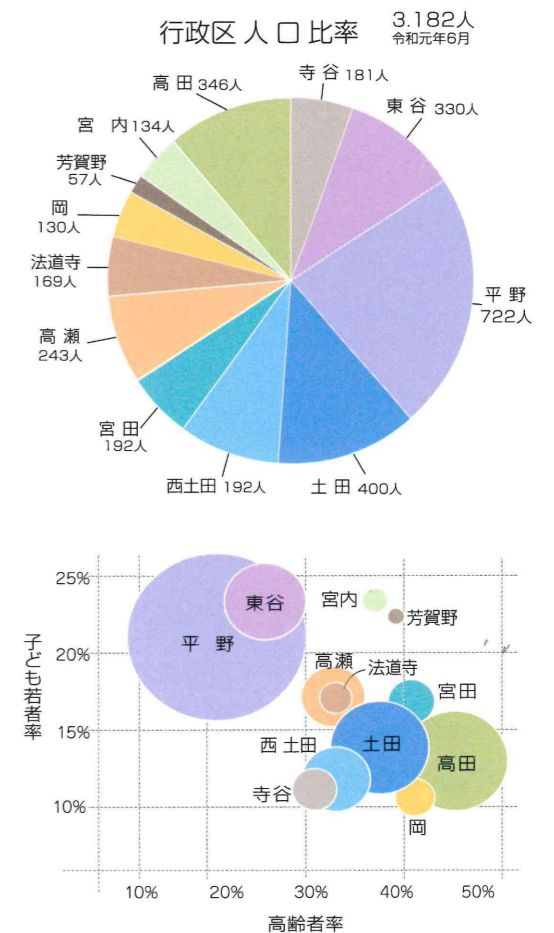
大蔵の紹介

大蔵地区には国道9号線、JR山陰線に沿って南北に12の集落が広がっています。

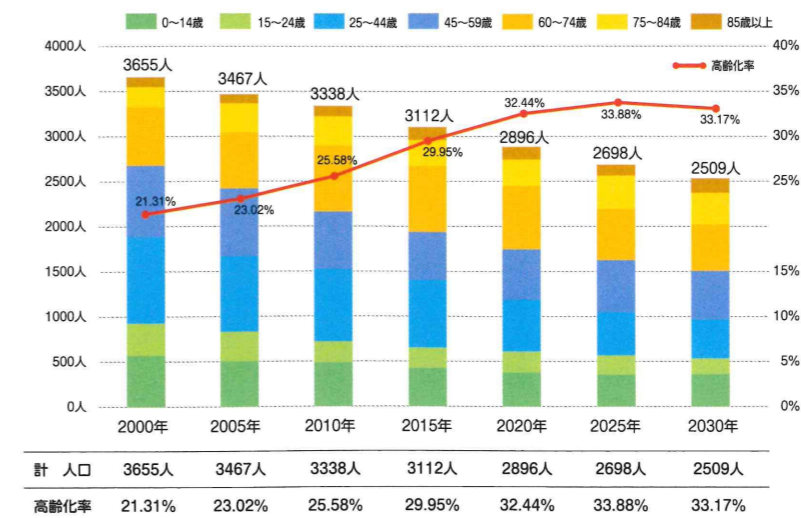
各集落ごとの人口構成は、次の表のとおりです。（令和元年6月末）

東谷、平野区では集合住宅が多く、また、土地区画整理が行われ住宅用地も整備され、さらには、和田山駅・市役所等に近接しているところから、他地域からの流入もあり、他の集落と比べて相対的に人口が多い集落です。また、比較的若年層が多いのが特徴です。

大蔵地域全体では、高齢化率は32.50%まで進んでおり（平成30年3月末）、すでに超高齢社会の地域となっておりますが、東谷、平野地区では子どもや若年者が多く、高齢化率は20%台となっています。一方、それ以外の集落では高齢化率が40%を超えている所もあり特に、高田区・宮田区・岡区にその状況が顕著にみられます。



これからの大蔵の人口の推移 (予想)



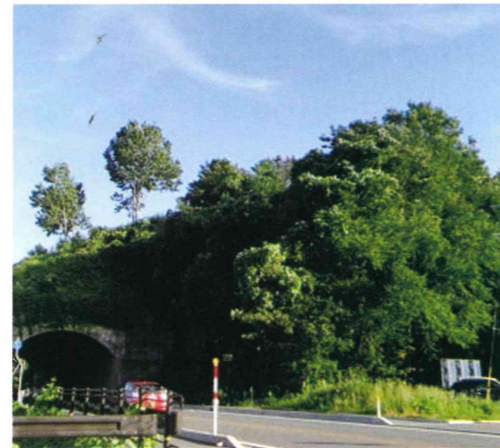
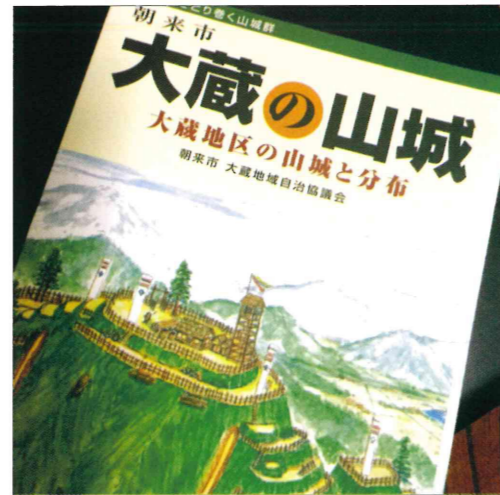
2030年には、人口が約2509人、全体のうち65歳以上の高齢者が占める割合を表す高齢化率が33.17%
0~14歳の人口を示す年少人口は約352人になると予想されています。

大蔵の紹介

古代、大蔵地域は石和郷と称され、その後石和郷と土田郷に分かれました。石和郷は、今の宮内区辺りが中心であったと思われます。土田郷は、今の土田に加え、平野区の一部に「本土田」という小字名が残っていることから、今の平野区辺りまで勢力が広がっていたものと考えられます。石和庄、高田庄、土田庄などと呼ばれていた時代もありました。隣接する藤和や大塚（養父市）がこの地域の一部であった時代もあったようです。

大蔵地区東部東谷区に在る城ノ山古墳は、4世紀ころに築造されたと考えられます。多くの埋蔵品が出土しました。また、隣接する池田古墳は、5世紀頃の築造と考えられ、但馬最大級のもので県下で4番目の前方後円墳であり、いずれもかつて南但馬を治めた王の墓と考えられています。また、宮内や高田でもおびただしい古墳群が発見されており、これらの出土品、遺構から大和朝廷と深い関わりがあったことや、かつて古代では但馬の王権のお膝元であったと推測されます。

また、戦国時代まで、当地域は山陰での東西要衝の地であり、鷲が城址、法道寺城址、岡城址、寺谷城址、観音山城址、高瀬城址、芳賀野城址、岡比丘尼城址、茶臼山城址、茶臼山北城址、向山城址などの山城が多く散在し、織田軍、毛利軍のせめぎ合いのあったことが推察されます。



大蔵の紹介

また、当地から出た方として、幕末討幕運動として知られる生野義孝のリーダーの一人中島太郎兵衛が居られます。

さらには日本児童文学賞を受賞された森はなさんは、宮田区に生まれ、代表作「じろはったん」や「ひいちゃんとタチアオイの花」や絵本など、多くの作品を世に出されました。

森はなさんが表現された「じろはったん」の思いやりや心のやさしさは、面々と当地域に息づいています。



大岩

ふるさと大蔵のお宝

マップ



21 岳堂平 (かくどうなる)

大倉部山 (692m)
「大蔵」の地名の由来になった?

至枚田

30 石堂の石仏と古道

31 芳賀野城跡

22 観音寺庭園

20 岡城跡

モリアオガエル

芳賀野

29 大ケヤキ

23 盈岡神社

17 法道寺城跡

24 宮内古墳群

19 古文書

法道寺

宮内

26 丸山古墳

中島太郎兵衛の墓

正音寺

2 城ノ山古墳

5 観音堂

12 観音山城跡

4 池田古墳

10 川すそ祭り

東見寺跡

光明寺

11 とびが城

7 若宮神社

6 法泉寺

13 大ケヤキ

14 名水とお不動さん

15 春米権現社

「じろはったん」の舞台

大蔵神社

3 内倉神社

和田山駅

東谷

平野

西土田

宮田

高田

浄安寺

教蓮寺

養父駅

至八鹿

民話「かごしま太郎」

日下寛治作像「友愛」

小出大和守 (土田代官所)

土田

無量寺

9 土田の街並

8 森はなさんと作品

大蔵保育所

かしの木園

大蔵小学校 幼稚園

大蔵市民会館

教蓮寺

養父駅

堀畑

27 高田村芝居

28 高田地蔵尊

25 高田の一本橋

寺谷城跡

ヤサイ

寺谷

1 手谷神社

「寺谷」の地名はここから?

右岸道路

至糸井

丸山川 (丸山川)

高田古墳群

NORIKO

13

大蔵地区の各地域に在る「お宝」を紹介します。

寺谷区

「式内手谷神社」

寺谷区西のはずれにあります。式内手谷神社は、延喜式神名帳（927年）に記載されている式内2861社のうち、2100番目に列せられる由緒ある神社です。社名の手谷（てたに、てだに）から、地名の「寺谷」に変化したものと考えられます。祭神は少彦名命（スクナヒコナノミコト）です。



東谷区

「城ノ山古墳」

4世紀頃の築造とされています。長径36m、短径30m、高さ5mの楕円形です。中には、組み合わせ式の箱型木棺が納められ、朱塗りで、埋葬された人の頭蓋骨や副葬品としての6枚の銅鏡、石釧、勾玉、管玉、直刀や小刀が出土しました。埋葬品から南但馬の広域を治めた王の墓と推察されています。



平野区

「池田古墳」

5世紀初めに築かれたもので、但馬では最大級、県下では4番目の大きさを誇ります。但馬の王墓とされる前方後円墳です。

全長約140m。最近の発掘では全国でも珍しい渡り土堤の遺構や子持ち水鳥の埴輪等も発見され、出土物は平成31年国の指定を受けました。大和王権と窮めて近い関係にあったと推測される古墳です。



大蔵地区の各地域に在る「お宝」を紹介します。

土田区

「川裾祭り」

土田の川裾さまは太陽とお月さまをお祀りしたもので、本地域から宍粟市にかけてお祀りされていました。大倉部川の流れが西から東へと方向を変え、その神秘さを祀ったものだと言われています。



西土田区

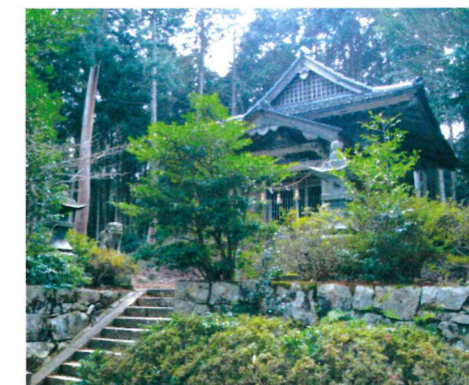
「鳶が城」

鳶が城は西土田西側山頂にあり、とても見晴らしの良い所です。土田郷の支配者であった土田氏の居城として南北朝時代に築られました。その後、幾度かの改修を経て戦国時代まで利用されていました。山頂、山腹には曲輪やたて堀の遺構が残っています。



宮田区

宮田区の南側山麓にあります法泉寺は、臨済宗のお寺です。開創は江戸時代の初期です。じろはったんの舞台となりました。春には見事に桜古木が満開の花をつけ鐘つき堂を包みます。江戸期の高瀬の俳人足立巨山、森はなさんの句碑が立っています。



大蔵地区の各地域に在る「お宝」を紹介します。

高瀬区

「高瀬地藏堂」

高瀬地藏堂は区民の大切な宝物として守られています。この地藏堂に祀られている地藏尊は竹ノ内の大カツラ、衣木にまつわる伝説が残されています。



法道寺区

「古文書」法道寺区民館・資料庫

川尻山における山論として山林田畑にかかる江戸享保・文政年間の訴訟古文書で、庄屋、年寄りらのリーダーによって引き継がれてきたものです。山論のことの起こりから終わりまで、また訴訟から判決まで、その費用や費用捻出に至るまで全てが記録として残されています。数メートルに及ぶ大型の詳細絵図面と判決文には大岡越前の署名と花押があります。



岡区

「岳堂平（ガクドウナル）」大倉部山の山頂付近にある平らかな場所です。推古天皇の時代に聖徳太子が巡礼されたこの地にお寺を開かれたと伝えられています。この岳堂平（ガクドウナル）には7ヶ寺があり栄えました。後代になって寺々が山を下り、畑の長福時、竹田の観音寺、岡の観音寺となったと伝えられています。養父市史では、「寺が平」と記されています。



大蔵地区の各地域に在る「お宝」を紹介します。

芳賀野区

「石堂の石仏と古道」

枚田、土田と芳賀野（岡谷）を結ぶ古街道があったと言われています。明治の頃軍隊が演習で行軍していったという話もあり、昭和年代にも解体家屋を東谷まで輸送したとも言われています。街道に面して、石に囲われた石仏が昔のままに残っています。



宮内区

「盈岡神社」

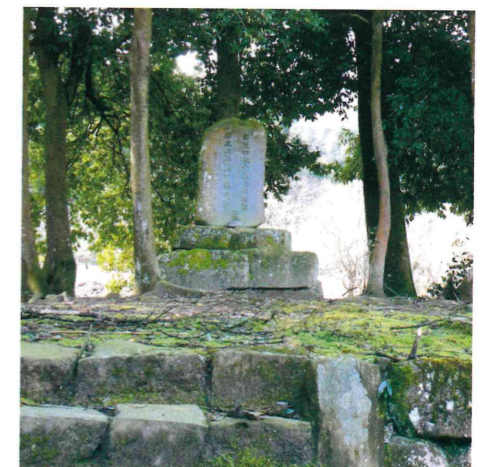
盈岡神社は大蔵地区内に2つある式内社のうちの一つです。気長帯姫命（オキナガタラシヒメノミコト）（神功皇后）を祀り、但馬131社の社座の中心社の一つです。かつては、石和7ヶ村（宮内、岡、法道寺、高田、高瀬、堀畑、大塚）の総氏神様でした。



高田区

「中島太郎兵衛の墓」

高田の大庄屋であった中島太郎兵衛と弟の黒田與一郎は幕末の統幕運動に加わり生野義拳のリーダーの一人として参戦しました。長州騎兵隊の前総督南八郎とともに農民軍を育成しようとしていました。死後明治になって従5位下を下賜されました。



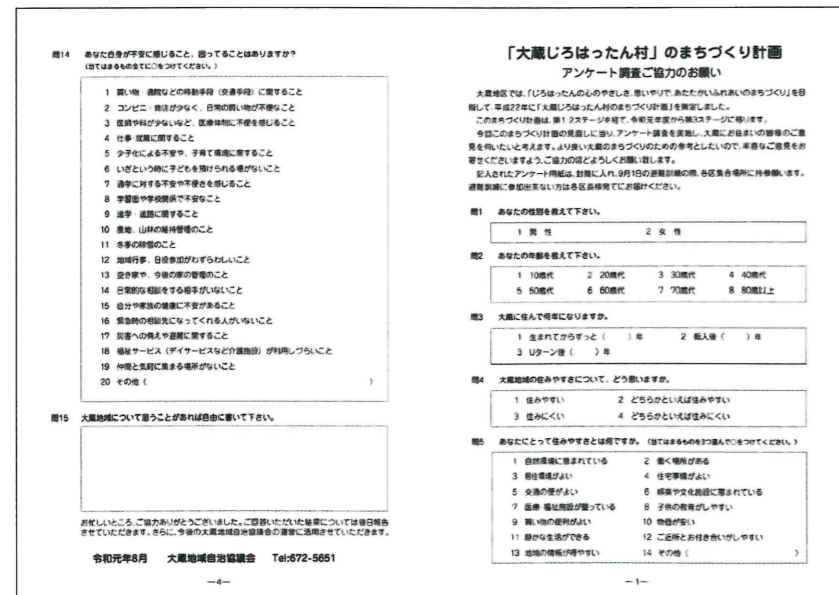
大蔵まちづくり計画アンケート調査

大蔵地域「まちづくり計画」住民アンケートについて

大蔵地域のまちづくりに向けて、地域住民が大蔵の現状をどのように感じているのか、どのような未来を描いているのかを把握するため、次のようなアンケートを実施しました。以下アンケート結果の概要について述べます。

調査時期	令和元年8月21日～9月1日
調査対象	大蔵地区全12区に居住の中学生以上80歳代までの全住民2,851人
回収方法	防災訓練の日(9月1日)に各区公民館宛持参および各区長宛持参
有効回収数	1,383通
有効回収率	48.5%
主な調査内容	<ul style="list-style-type: none"> 大蔵地域の住みやすさについて 住み続けるかどうか 地域活動への関心度 不安に感じること、困っていること ご意見、ご提案 等

10代から80代までの多くの方々から、様々な想い、ご意見をいただきありがとうございます。みな様の思いやご意見を、今後のまちづくりに活かしたいと思います。



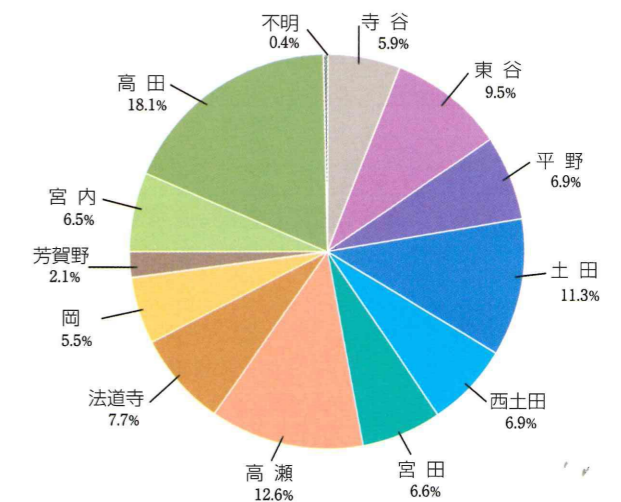
アンケート回収状況

回収の状況

表 1. アンケート回収の行政区別構成

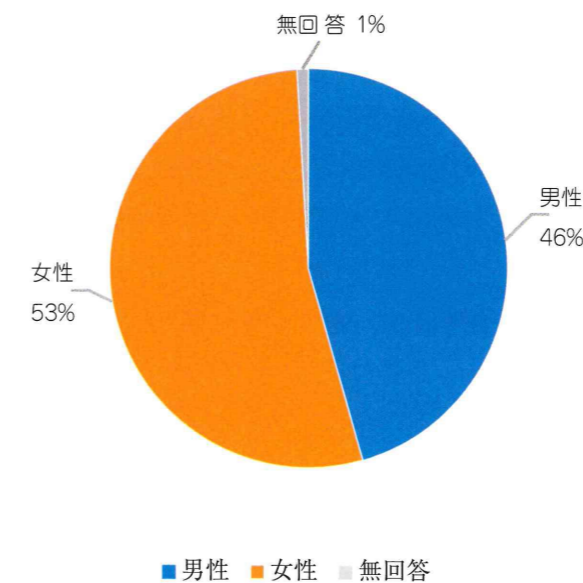
区名	回収数	地区回収率
1 寺谷	82	49.7%
2 東谷	131	46.3%
3 平野	96	15.2%
4 土田	156	42.3%
5 西土田	95	35.7%
6 宮田	91	53.5%
7 高瀬	174	78.4%
8 法道寺	107	66.9%
9 岡	76	65.5%
10 芳賀野	29	59.2%
11 宮内	90	81.1%
12 高田	251	91.3%
13 不明	5	
	1,383	48.5%

グラフ1. 行政区 回収比率

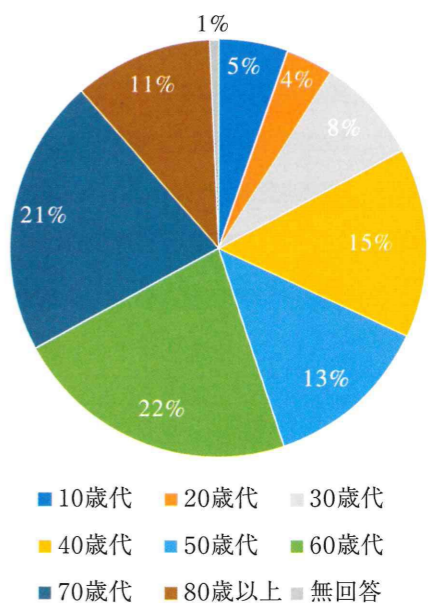


回収の状況

グラフ2. 回答者の性別



グラフ3. 回答者の年代



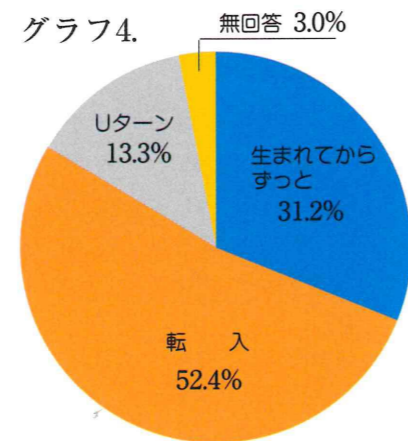
居住年数・住居形態構成

居住年数

現在に至る居住形態として、「生まれてからずっと」、「転入」、「Uターン」と分類した場合のその構成の比率および居住形態別の居住年数の度数分布を示す。

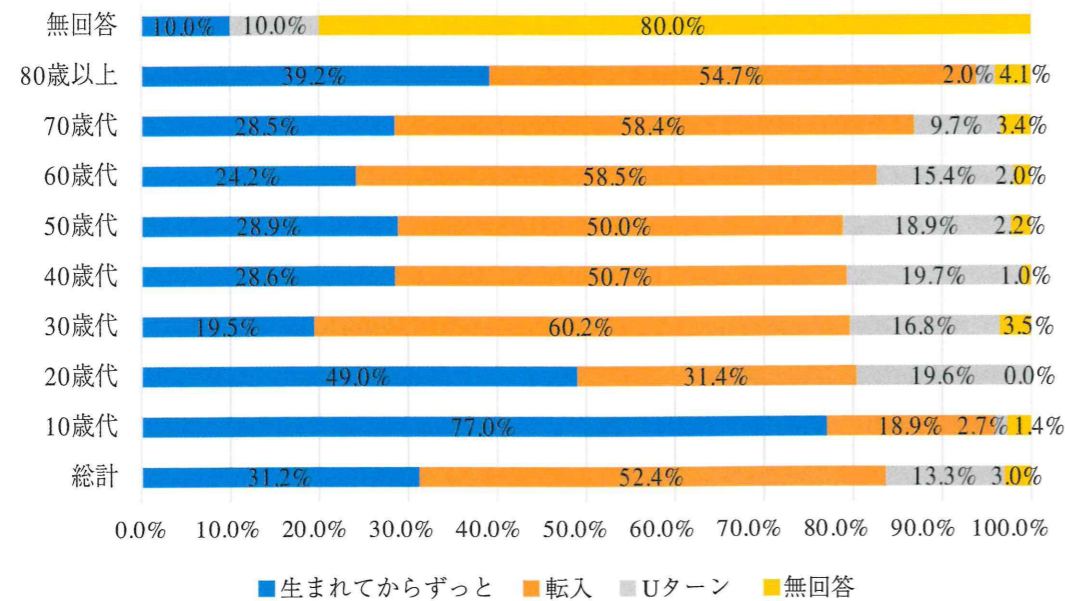
表2. 居住の形態と居住年数の構成

	回答数	構成比
生まれてからずっと	432	31.2%
転入	725	52.4%
Uターン	184	13.3%
無回答	42	3.0%
計	1383	100.0%



グラフ5. 年代別 居住形態構成

(※グラフ中「無回答」とあるのは、回答なし又は、属性等分類が不可能なものをいう。以下同じ)

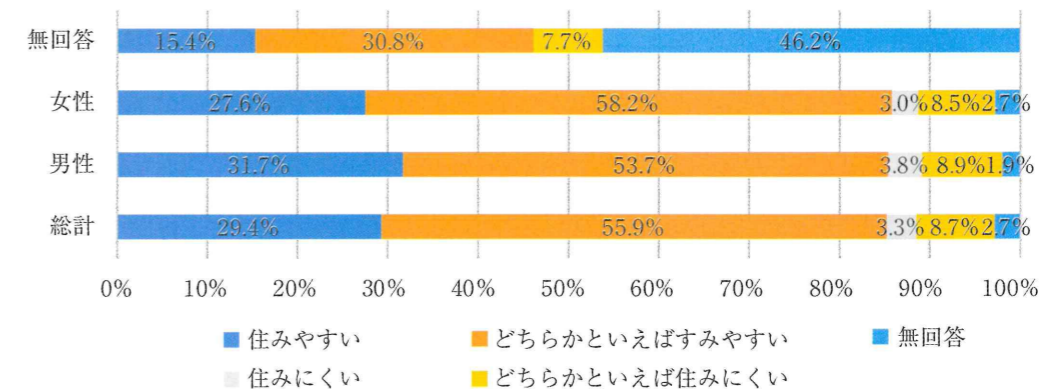


- ・全ての年代を合わせて考えた場合、「転入者」が5割強と最も高い比率を持つ。
- ・その中でも高いのは30歳代である。
- ・Uターン者の比率が比較高いのは20～50歳代となっており、最も高い世代で20%程度。

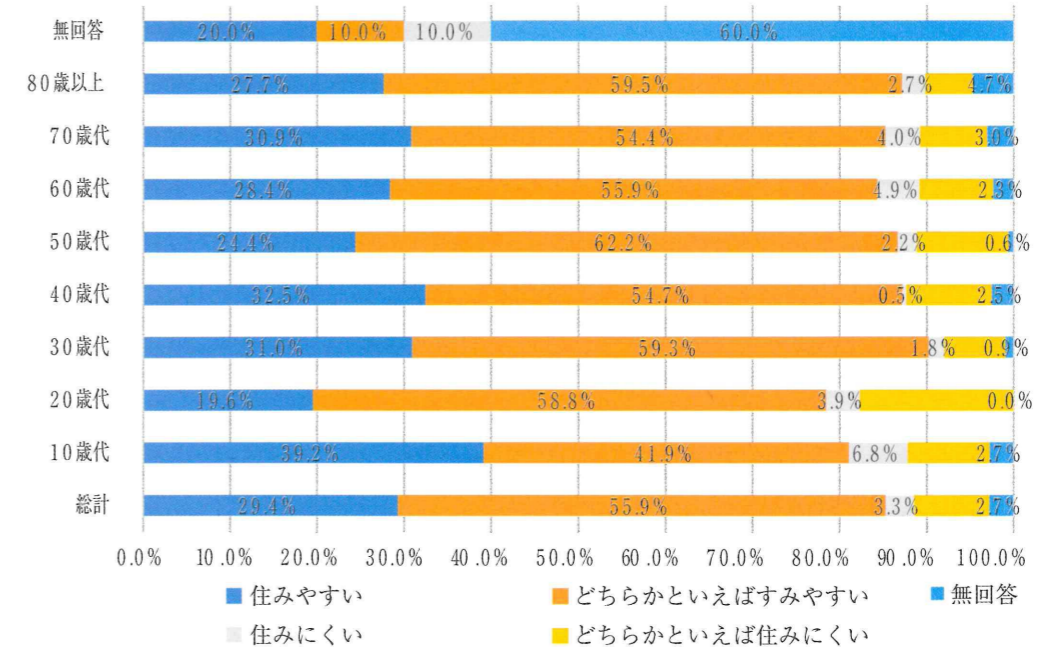
大蔵地域の住みやすさについて

住みやすさについて

グラフ6. 大蔵地域の住みやすさについて (性別)



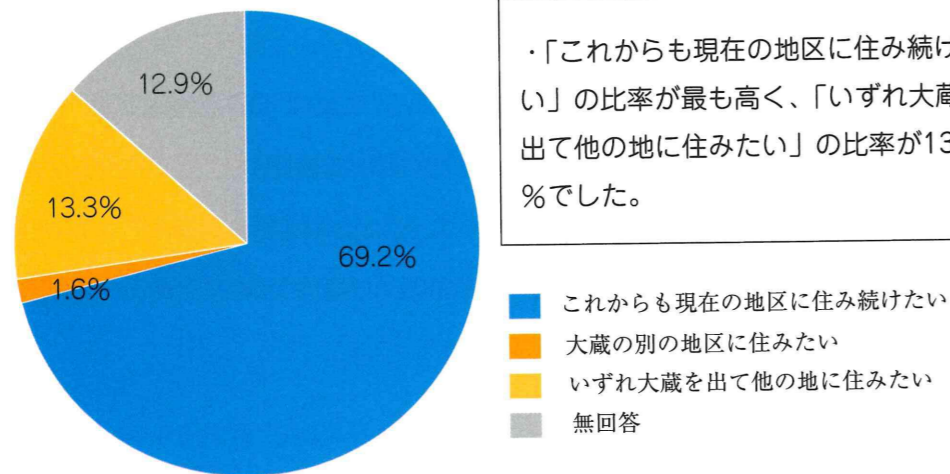
グラフ7. 大蔵地域の住みやすさについて (年代別)



- ・いずれの年代においても最も高い比率を示すのは「どちらかといえば住みやすい」である。
- ・「住みやすい」、「どちらかといえば住みやすい」を合わせたら、いずれの年代で8～9割と非常に高い比率を示すが、最も低い比率を示すのは20歳代で8割弱最も高い比率を示すのは30歳代で9割となっている。

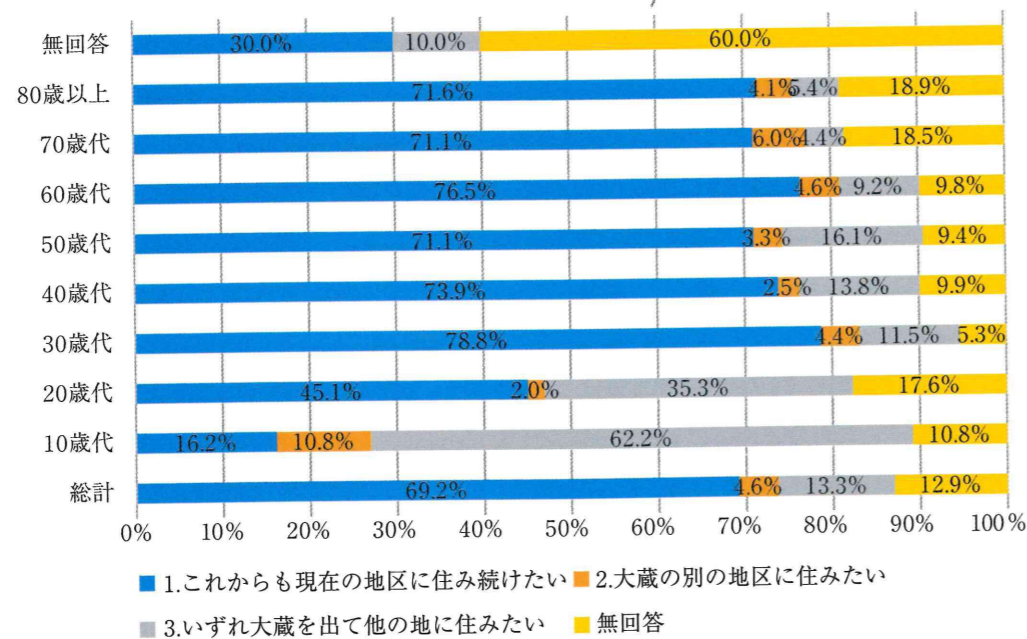
これからも大蔵に住み続けますか

大蔵に住み続けますか



・「これからも現在の地区に住み続けたい」の比率が最も高く、「いずれ大蔵を出て他の地に住みたい」の比率が13.3%でした。

グラフ8. これからも大蔵に住み続けるかどうかの意向（年代別）



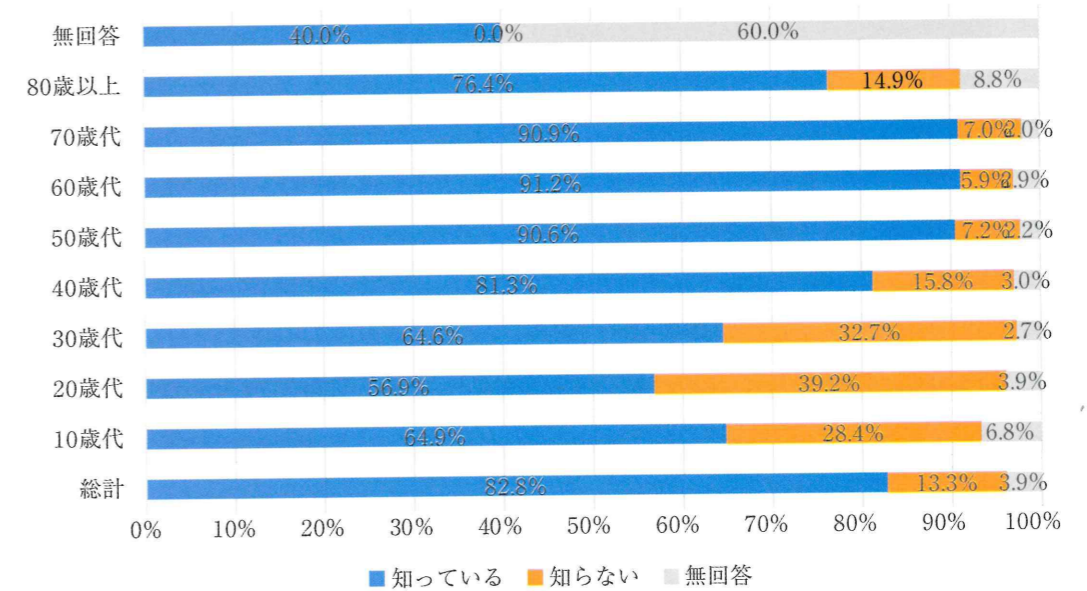
・「これからも現在の地区に住み続けたい」の比率が最も高いのは30歳代であり、次に高いのは60歳代となっている。・逆に、「これからも現在の地区に住み続けたい」の比率が低いのは10歳代である。・10歳代における「いずれ大蔵を出て他の地に住みたい」の比率が他の年代よりも格段に高い。

大蔵地域自治協議会について

大蔵自治協議会をご存知ですか

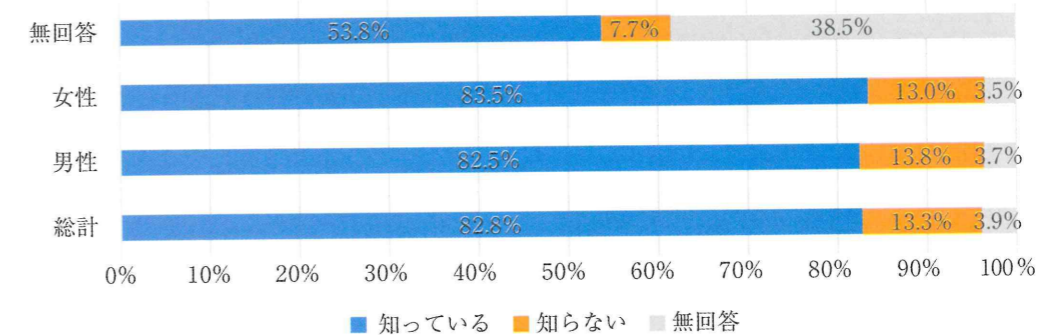
グラフ9. 大蔵に地域自治協議会があるのをご存知ですか

（年代別）



・いずれの世代においても少なくとも過半数以上の認知されている。
・認知率が最も高いのは60歳代であり、最も低いのは20歳代となっている。

グラフ10. (性別)

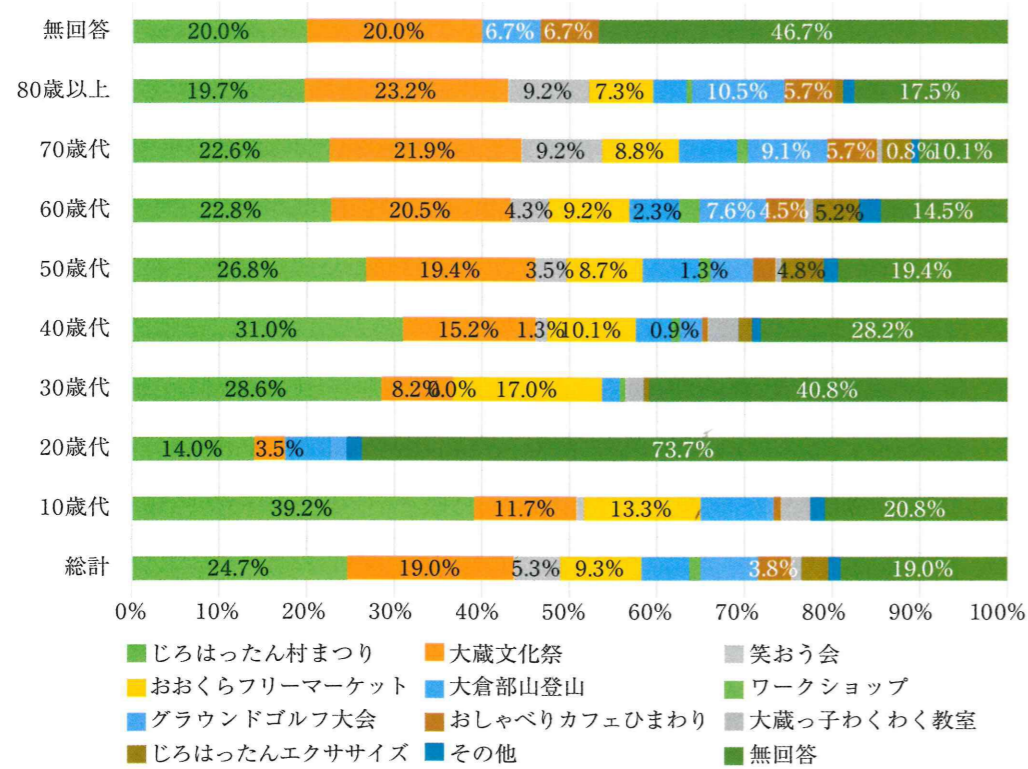


・認知の度合いについて、男女による差異は見られない。

大蔵地域自治協議会について

大蔵自治協議会の活動に参加しましたか

グラフ11. 大蔵地域自治協議会の活動に参加したことありますか（年代別）



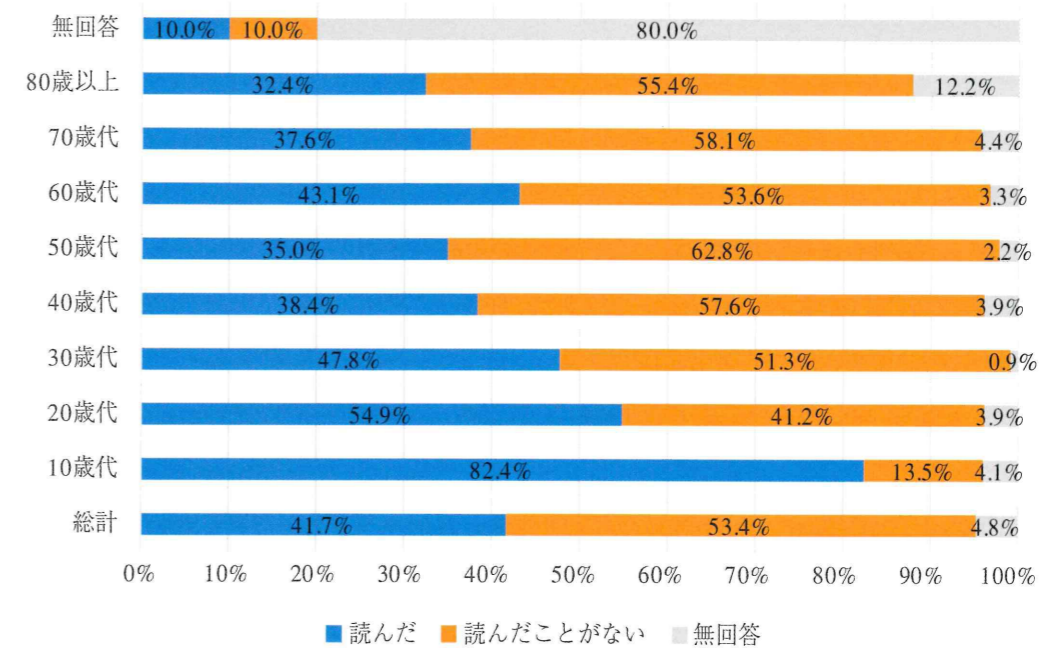
順位	男性	女性
1	294 じろはったん村まつり	363 じろはったん村まつり
2	218 大蔵文化祭	286 大蔵文化祭
3	115 グラウンドゴルフ大会	164 おおくらフリーマーケット
4	84 おおくらフリーマーケット	87 おしゃべりカフェひまわり
5	84 大倉部山登山	80 笑おう会
6	58 笑おう会	71 じろはったんエクササイズ
7	18 ワークショップ	62 大倉部山登山
8	13 おしゃべりカフェひまわり	57 グラウンドゴルフ大会
9	12 じろはったんエクササイズ	19 大蔵っ子わくわく教室
10	11 大蔵っ子わくわく教室	16 ワークショップ

・男性女性いずれにおいても1位は「じろはったん村まつり」であり、2位は「大蔵文化祭」である。

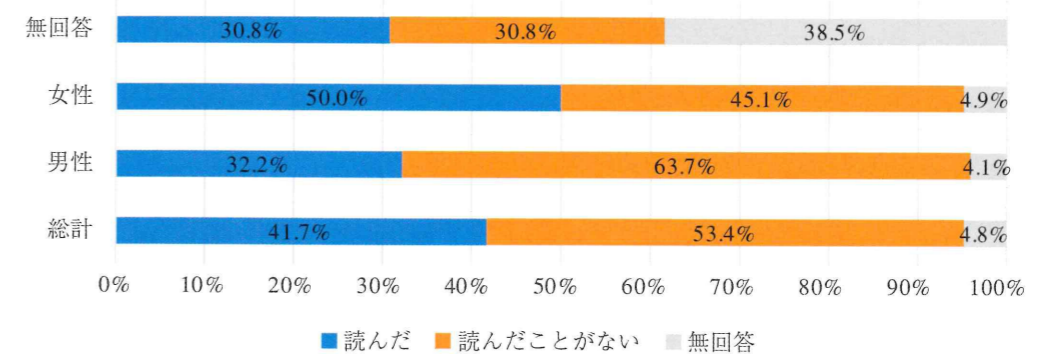
「森はな」さんと「じろはったん」

「じろはったん」を読んだことがありますか

グラフ12. 森はなさん著作の「じろはったん」を読んだことがありますか（年代別）



グラフ13. (男女別)



・年代で比率を比較すると、10歳代において格段に比率が高く、8割強となっている。
 ・比率が最も低いのは、50歳代となっている。
 ・性別で比率を比較すると、女性における比率が高く5割におよぶ。

今後の対応と取組み（特に「不安」、「困りごと」に関して）

大蔵地区の人口は、本報告書作成時点では3,182人とされています。朝来市の資料によると、2020年（本年）には3,000人を割り込み、5年後の2025年には2,698人、10年後の2030年には2,509人になると推測されています。一方、高齢化率は、現状では32.50%（平成30年3月）とされていますが、5年後には33.88%、10年後には33.17%と推測されています。

これらはあくまでも推測であり、確実な数字ではないにしても、おおよそ近似値を辿っていくことでしょう。

人口が減少し、高齢化が一層進んでいくことによる不都合な点とは何でしょう。

令和元年夏に実施した大蔵地区全住民を対象にしたアンケートにおいて、様々な想いが寄せられています。その中で特に目を引いたのは「人口減少」でした。

人口減少、高齢化が進むと、一般的には地域経済の縮小や生活水準の沈滞が避けては通れなくなるとされています。日本全体が人口減少と高齢化の急速な進展に晒されており、緊急かつ確かな対応策が叫ばれていますが、なかなか有効的施策は見受けられないようです。日本全体が縮小していくなか、地方の田舎ではそれに輪をかけた状態で日本の将来の姿の先駆者として先頭を

走っています。大蔵地区のような地方集落は全国至る所に掃いて捨てるほどあるというのが現実です。

一地域の力で、人口を増やし高齢化の進展を食い止めることができるのでしょうか。もしできるのであれば、どのようなやり方が良いでしょう。また、もしできないのであれば、現状を受容したうえで、それを超越し得る何かがあるのでしょうか。そして、それはどのような手法を取ればよいのでしょうか。

高層ビルが立ち並ぶ大都会のビル街を創生しようというわけではありません。それは「街」であって「まち」ではないのです。また、行政区画の「町」をいうのでもありません。「まちづくり」の「まち」とは人と人との繋がり、すなわち「人づくり」のことをいうわけです。



大蔵地区の「強み」と「弱み」の把握

大蔵地区に住み続けていくには、まずは足下をきちんと掌握しておかなければなりません。良いと思えるところ、悪いと思えるところがあると思われます。これはややもすると人によりけりで、多分に主観的な評価になる点は否めませんが、多くの住民が考えていること＝事実として捉えるのがおおよその正解なのだろうと思います。

アンケート結果のうち、「あなたにとって住みやすさとは何ですか。」という問いかけに対して、各年齢層を横断的に回答されたのは、次のとおりです。（強み）

- ① 自然環境
- ② 買い物の利便性
- ③ 住居環境
- ④ 静かな生活
- ⑤ 交通の便

大蔵地区では上記の項目が満たされている部分もあり、意外と満足度は高いと評価できるのです。しかし一方、次に並ぶ評価のように、買い物の利便性が低い、交通の便が悪いなど、負の部分意識している住民も多数あることから、一つの客観的事象が人により、感じ方により、個人的な生活環境、経済状況等により全く対極的な捉え方となっています。

次に、アンケート結果のうち、「あなた自身が不安に感じること、困っていること

はありますか。」という問いかけに対して、各年齢層を問わず、次のような回答を得ました。（弱み）

- ① 買物・通院などの移動手段（交通手段）に関すること
- ② コンビニ・商店が少なく、日常の買い物が不便なこと
- ③ 医師や科が少ないなど、医療体制に不便を感じる
- ④ 仕事・就職に関すること（就職先が少ない）
- ⑤ 少子化による不安や、子育て環境に関すること
- ⑦ いざという時に子どもを預けられる場がないこと
- ⑧ 通学に対する不安や不便さを感じる
- ⑨ 学習面や学校関係で不安なこと
- ⑩ 進学・進路に関すること
- ⑪ 農、山林の維持管理のこと
- ⑫ 冬季の除雪のこと
- ⑬ 地域行事、日役参加が煩わしいこと
- ⑭ 空き家や、今後の家の管理のこと
- ⑮ 日常的なことを相談する相手がいないこと
- ⑯ 自分や家族の健康に不安があること
- ⑰ 災害への備えや避難に関する
- ⑱ 福祉サービス（デイサービスなどの介護施設）が利用しづらいこと
- ⑳ 仲間と気軽に集まる場所がないこと
その他

年齢別の「不安」、「困りごと」

年齢層別にみると、「不安」や「困っていること」は明確に異なっています。各年齢層別の「不安」・「困りごと」は次のとおりです。

10歳代	1 仕事・就職	2 通学
20歳代	1 仕事・就職	2 医療体制
30歳代	1 医療体制	2 除雪
40歳代	1 除雪	2 医療体制
50歳代	1 医療体制	2 空き家、家の管理
60歳代	1 農地山林の管理	2 空き家、家の管理
70歳代	1 農地山林の管理	2 空き家、家の管理
80歳代	1 農地山林の管理	2 移動手段

80歳代の「困りごと」のうち「移動手段」というのは、運転免許証がないか、車を保有していないか、または家族・親族から運転を自重するようと言われていたかのいずれかだと推測できます。このような事象は高齢化と核家族化が進んでいる現在、やがて誰にでも起こり得る事柄です。

「移動手段」に困っていると回答した方が一方、「買い物の利便性が高い」と回答した方もおられ、皆が皆感じることは同一ではありません。また、大蔵地区の将来の在り方について何も考えない、無関心であるといった方も半数を数えています。アンケートとはこういったものだろうと思います。

このように、大蔵地区の「強み」と「弱み」をほぼ適正に把握、理解することが、「まちづくり」のために重要となります。



目指す数値の設定・・・理想に向けて

具体的な「まちづくり」を推進していくためには、目指す数値がある方がやり易いと思います。バラ色の言葉を幾ら並べたところで一体何になるのでしょうか。

具体的な数値目標を設定し、それに向けて手法を考え実践し、進捗度を住民が共有することこそ「まちづくり」の取組であると思われます。どのようにしたらよいのかを議論する過程も非常に大切になってきます。例えば次のような指標の設定は如何でしょう。

- ① Uターン、Iターンを年間2世帯以上とする。
- ② 要介護・要支援の方たちを 200人以下にする。(平成30年3月時点 204名)

このような目標を掲げ実現させるためにはどのような有効的対処方法があるのかを探っていきます。当然、啓蒙啓発活動も必要となるでしょう。揚げ句の果てには、市の条例制定・改正等も必要となってくるのかも知れません。実現可能性を希求するうえで、地元住民の発想と積極的な働きかけが最も大切だと思われます。

また、こういう指標の設定も考えられます。

- ③ 大蔵地区内の空き家の数を80戸以下にする。(平成30年3月時点 80~100戸)

この対応は不可能なのでしょうか。多分にプライベートな問題を含んでいますので簡単ではないでしょうが、これまでの大蔵地区での対応は限りなく「0」に近いでしょう。まずは的確な情報の収集と分析・整備が必要となってきます。市の空き家バンクの制度などとも連携していくことになろうかと思っています。「空き家バンク大蔵版」なるシステムの構築が望まれます。

大蔵地区内の12の区が、それぞれ区に適合する趣向を凝らした対応策を検討し、大蔵地区全体で共有していくことが必要だろうと思われます。そのうえで、可能な道筋を探っていけば目標値の達成化が図られるのです。

人口減少と高齢化の原状から飛躍しよう

大蔵地区は都会か田舎かと問われると、間違いなく「田舎」と回答することになるでしょう。

人口の多少で勝ち負けが決まるわけではありませんが、とりあえず人口を切り口とすると、日本の国では東京圏が独り勝ちの傾向があります。田舎で育った若者の多くが東京圏に吸い寄せられる状況にあります。この傾向は、何も日本の国に限ったことではなく、諸外国でもこのような傾向が見受けられるようです。

若者が一度は大都会に出てみたいと憧れを抱くことについて、最近の親御さんは反対する人は少ないようです。それどころか、「一度きりの人生だからお前の好きにするがいい。」と背中を後押しする親もあると聞きます。

今の時代、家持ちだからとか長男だからとかいう理由でUターンを促すことはできなくなってきています。特に女性達は一旦大都会の暮らしを体験した場合、ほとんど田舎に帰ってくるのではないと思われま

す。国の施策として様々な「地方再生策」が講じられようとしていますが、現在迄で、あるいは将来に亘り実効性は低いようです。

日本全体が「超高齢社会」に突入していますが、地方はそれに輪をかけて高齢化が進んでいます。ちなみに、大蔵地区の高齢化

率は32.5%（平成30年3月）で、紛れもなく超高齢社会となっています。

※（高齢化率＝65歳以上の人口÷全人口×100 日本
の高齢化率＝28.4%（2019年9月）団塊の世代が後期
高齢者となる2025年には高齢化率が30%、また2040
年には高齢化率35.3%と推計されています。高齢化社
会＝高齢化率7%～15% 高齢社会＝高齢化率15～21%
超高齢社会＝高齢化率21%以上）

大蔵地区では、既に3人に1人が65歳以上となっていることとなります。

高齢化率が上昇するのには理由があります。率の算出方法である分母数いわゆる総人口が減少することが最大の理由となっています。

大蔵地区が超高齢社会に突入したことが、すなわち悩ましいことではありません。現状を直視したうえで、「そうならば、元気なお年寄りが沢山住む大蔵地区を目指そう。」と考えるのも、一つの方向性だと思われま

す。大蔵地区が日本における特別な田舎ではなく、どこかの地方の田舎も共通して抱える悩みや問題点を抱えています。

日本の田舎が抱える共通の悩み、問題点とは、①人口減少 ②少子化 ③高齢化 ④空き家の増加 ⑤放棄田の増加 などで

す。やはり大蔵地区も同様な悩み、問題点を抱えているのです。

みんなで考える、大蔵地域の活性化

先述のアンケート結果について詳細に分析してみると、様々な困っていることの背景に「人口減少」や「少子化」、「高齢化」などの問題が横たわっていることが垣間見えます。

大蔵地域自治協議会では、これからのまちづくりをどのようにしていったらいいのかについて検討を続けてきました。妙案が出てくる「打出の小槌」のような万能で便利なものがある訳ではありません。今後とも地道に検討を継続していきたいと考えています。

地域活性化を目指していくためには、ハードとソフトの両面から改革・改善を図っていく必要があると思います。自治協議会としてはできることは限られているかも知れませんが、行政と連携を図りながらまた、民間の協力も仰ぎながら、特にソフト面について力点を置き、改革・改善のためには何を手掛けなければならないかを部会員、住民のみな様と膝詰めで検討を継続していきます。

例えば、高齢化率を減減させるためにはどういったことが有効なのか、空き家をこれ以上増やさないための手立ては全く無いかといったような点について知恵を出し合いたいと思います。

また、お年寄りの人口が増えても元気なお年寄りでももらえるためには、地域挙げてのどのような取組が必要かつ有効なのか、健康寿命を伸ばさせるための取組は無いのかなども検討課題となります。

「開催イベントの参加者〇〇名」も地域活性化のための重要な指標の一つであることは論を待ちませんが、「健康寿命県下一、日本一」などというキャッチフレーズを追いかけていくのも大蔵の住民にとってワクワクする指標だと思います。手法としては次のように具体的な目標値を張り付け、それを目指すのが良いかと思

性別	健康寿命全国平均値	大蔵地区目標値
男性	72.14歳	75.00歳
女性	74.79歳	78.00歳

※健康寿命＝寝たきりや認知症など、介護状態の期間を差し引いた期間（世界保健機関（WHO）が提唱

平均寿命や健康寿命といった指数は、国により、または県により、さらには地域により明確な差異が認められます。これにはれっきとした理由があります。食事習慣、運動習慣、社会参加、ストレスなどです。

地区を挙げてきちんと取り組むことにより、大蔵地区が日本一、世界一になっても不思議ではありません。

スタートラインに立った「まちづくり計画」

高齢者の知識と知恵と経験は、何物にも代え難い貴重な財産です。これらの財産を若年層が受け継ぎ、さらに発展させる責任と義務が高齢者、若年層のそれぞれ双方にあると思います。

今般「まちづくり計画」を策定しましたが、今正にスタートラインに立ったところだと思えます。昨年「まちづくり計画」に対応するために「まちづくり検討委員会」を立ち上げましたが、「まちづくり計画書」が作成された今の段階で終わらせるのではなく、委員会の名称を変更してでもメンバーを入替してでも機能は継続させていくものです。アンケート結果を踏まえ、5年後、10年後の大蔵地区をしっかりと見据えてまいります。

今の段階で一切何も施さなければ廃村となる地域が、全国でも幾らでもあります。相撲に例えれば、徳俵いっぱい詰められた状態だと言えます。それを盛り返して土俵の中央で勝負しようというものですから並大抵のことでは状況はひっくり返りません。しかし、翻って、その状態から土俵中央まで押し戻し、勝利をおさめた力士もかつて山ほどいるのです。諦める必要はありません。しかし、その時点では師匠や親方の力を借りるわけにもいきません。信じら

れるのは日頃培ってきた自らの力のみです。

一から十まで全てを一方向的に行政に頼るのではなく、また、世の流れだと尻尾を巻いて諦観するのでもなく、今後、それぞれの課題について積極的に具体的な数値目標を設定して、適宜達成度を検証し修正を加えながら、より住みやすいまちづくり、活性化を進めていきたいと思えます。

「安全で、安心して暮らせる地域であり、年長いても健康で笑顔で過ごしている。」「自然環境にも恵まれ、子ども達ものびのびと暮らしている。」「生活の利便性は高く、住居環境も抜群だ。」「住人は皆穏やかで、争い事はこの何十年聞いたこともない。」「何よりも他に誇れるのは、この地に住むと健康余命が延びる。」といった方向性を掲げて。

大蔵地域自治協議会には、「生活環境部会」「健康福祉部会」、「交流と魅力づくり部会」、「生涯学習部会」と4つの部会があり、それぞれ12の区から選出された（自薦・他薦）部会員で構成されています。様々な課題について、各部会毎あるいは横の連携を深めながら、具体的な目標値を達成すべく対応策を検討し実行していきたいと思えます。

大蔵のまちづくり計画は、スタートラインに立ったばかりです。僅か半年ほどで5年後、10年後のまちづくりを検討し結論を得るのは不可能だろうと思えます。先述のように具体的な数値目標を設定するなどにより、今後継続してまちづくりを検討していきたいと思えます。まちづくり検討委員会の機能は今後も継続させますので、今後順次検討事項を住民の方へお知らせするとともに、住民のみな様から建設的なご意見を窺いながら、一緒になって取り組んでいきたいと思えます。

100年経っても「大蔵」は元気です！

これを目指して行きたいと思えます。主役は大蔵地区の住民ひとり一人です。

まちづくり委員会名簿（敬称略・順不同）

委員長	柴本 修 岡	委員	田村 昌平 高田
副委員長	石田 誠 東谷	委員	田中めぐみ 高田
副委員長	雑賀 忠文 法道寺	委員	平岡 好美 岡
部会長	横尾 正信 芳賀野	委員	藤野 幸子 宮田
部会長	森下 恒夫 岡	委員	梅田 京子 高瀬
部会長	小川 高行 高田	事務局長	森田 勉 土田
委員	小谷 則彰 高田	事務局	小川江里子 高田
委員	藤原 新吾 土田	支援職員	田中 勉 高田